

◎十七番（坂本竜太郎君）議席番号は十七番となりましたが、自分自身の身上には相変わらず何のめだたい話もございません。自由民主党議員会の坂本竜太郎でございます。

このふがいなさをばねに精いっぱい一般質問させていただきたいと思いますので、皆様、本日も何とぞよろしくお願い申し上げます。

本日も懲りずに奇妙なテーマを二本掲げさせていただきました。まずは、積み上げてきた努力の成果を発揮し、展開すべき取組についてであります。

ここ数日、デルタ株の脅威についての報道がなされるなど、新型コロナウイルス感染症との闘いは全くもって予断を許すことのできない状況が続いております。同時に我が福島県は、復興を成し遂げるためには必ず避けて通ることのできない課題であります、いわゆるALPS処理水の処分についての新たな局面に立たされております。

この十年間、全県挙げて闘ってまいりました風評の払拭につきまして、県民の皆様の御努力や積み上げてきた成果が水泡に帰してしまうことのないよう、国が前面に立ち、万全な対策を講じることの重要性を都度内堀知事が強調なさっておられますことは、様々な要素が複雑に絡み合っており、本当に難しいお立場にあるという中におきましては至極当然のことです。

その上で、私は政府の丁寧な説明によります十分な理解を得るための取組の必要性とともに、やはり本県としてもとにかく風評を生じさせない努力を引き続き主体的に重ねていくべきであると強く考えます。

具体的に申しますと、前回昨年十二月に登壇させていただきました際にも強調させていただきましたように、このコロナ禍にありまして本県の取組について海外に発信していただくことよって、これまで関係を構築してこられました、例えばドイツのノルトライン・ヴェストファーレン州との関係を維持、強化し、コロナ後にますます連携や信頼が深まるように努

めるべきであります。

実際その直後でありました本年一月には、内堀知事も御面識がおありのノルトライン・ヴェストファーレン州のアルミン・ラシエツト首相がドイツの与党でありますCDUキリスト教民主同盟の党首に就任なされました。直近の情報によりますと、あと三か月と迫りましたドイツの次の政権を決める連邦議会選挙、いわゆる総選挙の情勢といたしまして、与党CDUがここに来てじわりリードを広げておるといふことであります。このままの展開ですと、現在州の首相であるラシエツト党首がドイツの首相になることも現実味を帯びているということでもあります。

やはりこの間にこの関係を深めておいて決して損はなかった、むしろヨーロッパにおいては最大、我が日本国に次いで世界第四位の経済大国でありますドイツの首相とのパイプがあるのが内堀知事であり、我が福島県であるという好機に恵まれるということになります。

根深い風評の払拭のためには、国際社会で影響力のある人物や国々の理解や協力を得ることが得策であるといふことは疑う余地がありません。本県は、こうしたこれまでの御縁、積み上げてきた努力の成果を存分に発揮し、本県への正しい理解の浸透、そしてまずは風評を生じさせない工夫をすべきであります。

同様に、世界各地で長年活躍されております各国の福島県人会の皆様も御当地において大変信頼が厚く、やはりそれぞれのコミュニティーにおいて影響力のある方々であります。しかも、我々以上にふるさと福島を思い、御心配をなされております。

やはり正確な情報を理解し、納得し、安心することができなければ、自信を持って異国にある同じ日本人にさえ説明することができず、それぞれの国々の方々に御理解を求めることはできません。これでは到底風評払拭

には程遠い。本年度もアメリカ等において農産物や日本酒のフェアを開催するなどの発信に努めていただけるそうではありますが、幾らよいものをアピールしたとしても、「ところで、処理水の件は」と現地で素朴に尋ねられたとした場合、「それは国が説明します」とはその場では到底言えないのでありまして、少なくとも現状についての揺るがざる事実関係については本県自身も発する必要があると考えます。

このように、これまでの十年間連携を深めてきたI A E A等の国際機関、温かい御支援をいただいてまいりました国々、農水産物の取扱いをめぐり様々な働きかけをしてまいりまして、絆を深めてまいりました東南アジアをはじめとする各国やそのために駆使してこられた各国在外公館やジェトロ、日本貿易振興機構あるいはクレア、自治体国際化協会への県職員の方の派遣を通じた関係、そして続けて二回も本県で開催されました、いわゆる太平洋・島サミットで築られました島嶼国等十八か国との友情と信頼、さらには県内各自治体によります東京五輪のホストタウンとしての御縁等々、これまで本県が積み上げてきた努力は枚挙にいとまがありません。今こそこれらを総動員し、本県に対する正しい理解を広げ、とにかく新たな風評を生じさせない取組を一層すべきであります。

そこで、海外との絆を生かし、福島復興の現状や魅力を発信すべきと思いますが、知事の考えをお尋ねいたします。

海外からの風評の逆輸入を阻止するべきであるとの思いからも、冒頭知事に海外への発信につきまして強く求めさせていただきましたが、当然ながら国内、県内での取組もなおさら重要であります。私は、伝承館こそがその拠点であるべきと考えます。

伝承館には、熱心な方々が各地より多数御来場くださっております。教育旅行やホープツーリズムの聖地として、今後ますます震災の教訓を伝え、

本県の現状と取組、そして未来を発信し続ける拠点である以上、処理水への理解を深めたく、遠方からも多くの方々を足をお運びになられるものと考えます。今春一部リニューアルをした矢先ではありますが、この伝承館でこそ風評を生じさせないための取組をすべきであると考えます。

そこで、県は東日本大震災・原子力災害伝承館において風評払拭にどのように取り組んでいくのかお尋ねいたします。

正しい理解や風評払拭、そして農林水産業等の活性化のために、これまで本県はGAPやHACCPの取得を支援し、活用してまいりました。これらは、同時にそれぞれのなりわいへの向き合い方や経営感覚等を養い、新たな次元へと押し上げる効果も期待されます。

また、創業や開発型、提案型の企業を育成すべく、ふくしまベンチャーアワードやふくしま産業賞における知事賞の授与等によりまして意欲的な企業をたたえ、さらなる活性化につなげております。

私は、さらに事故やトラブルの経験を糧に、むしろ積極的に改善したという取組を進めた企業や団体の製品安全に関する優れた取組自体を表彰する国の制度であります製品安全対策優良企業表彰等にも県内企業が積極的にチャレンジし、活用することで、県内産業のさらなる振興を図り、本県に対する信頼を高めることで風評の払拭にもつながるものと考えます。

そこで、県は各種表彰制度を活用した県内産業の振興にどのように取り組んでいくのかお尋ねいたします。

さて、県内の産業といえば、新たな産業基盤の構築を目指しております福島イノベーション・コースト構想、こちらも各拠点整備も続々かかないまして、新たなステージに入っております。そして、この間の御努力の延長線上には、人材育成から交流人口の拡大に至るまでの次なる展開が期待されております。

復興五輪であるはずの東京五輪の開幕まで本日で何とあと二十四日となりましたが、残念ながら現状このコロナ禍にあつて当初のような期待が不透明な中でありますので、このイノベーション・コースト構想による交流人口の拡大が大いに期待されるものとなっております。

しかも、海外からの観光客の入国がしばらくは難しい状況下で、この先、先行して徐々に解禁されるとすればビジネスストラックによる往来でありまして、国内におきましても同様であると考えます。さらに、行く行くは観光面をはじめ様々な波及効果があるものと期待をしているところでございます。

そこで、県は福島イノベーション・コースト構想により交流人口の拡大にどのように取り組んでいくのかお尋ねいたします。

こうした先を見据えた取組への期待とともに、この状況下だからこそその取組としてオンラインの活用がございます。今すぐ本県を訪れたくても来られない方にも、これまで本県への関心がさほどなかった方にも、全く御縁のない海外の方にも、パソコンやスマートフォン等の機器とインターネットの環境さえあれば簡単に本県の魅力に触れていただくことができ、許される状況になりましたらぜひ本県を訪れてみたいというお気持ちになつていただくことができる方法がオンラインを活用した観光誘客であります。少なくとも本県への誤った理解がなされるということはないでしょうし、むしろ居ながらにして本県のファンになつてくださる可能性さえございます。

そこで、県はオンラインを活用した観光誘客にどのように取り組んでいくのかお尋ねいたします。

また、県産品についても同様であります。いわゆる巣籠もり需要、あるいは非接触の概念の浸透など、感染拡大防止の観点からオンラインでの食品

購入が増えるなど、我々の消費行動にも変化がもたらされました。オンラインでの観光と同様、居ながらにして日本全国のみならず世界中のものが手に入る、逆を言えば世界中を商圈とすることが可能となったとも言えますので、新たな販路の拡大によります、本県が誇る県産品のさらなる振興がかなうものであります。

そこで、県はオンラインを活用した県産品の販売促進にどのように取り組んでいくのかお尋ねいたします。

さて、県産品といえば今や日本酒が代表格であります。おまえ日本酒の味分かるのかと怒られそうですけれども、このたびの全国新酒鑑評会での金賞受賞数八回連続日本一、これは一昨年のタイ記録ではなくて、正真正銘の日本一となったわけでございます。心よりお祝い申し上げますとともに、長年の酒米開発、熱心な酒造技術の研究と定着、そして年々変化する天候や米の質の違い、そしてそれらに合わせた酒造り、さらにはコロナ禍によって日本酒需要が減っているという中であつての果敢な挑戦に対しまして、深く敬意を表する次第であります。

今後は、ぜひともこれらを守り抜き、さらに磨き上げていただいて、自信を持ってふくしまの酒を全世界の消費者の皆様へお届けできるような仕組みづくりが必要です。そのためには、今度は追われる身、まねをされる身、物騒ですが、盗まれる立場にふくしまの酒はなつたわけでありますから、しっかりと知的財産の面での意識も高めることが肝要となります。間違つてもふくしまの酒と冠した全く別のまがいものが異国の地からオンライン上で多売されて暴利を貪られ、正規の県産日本酒の売上げに影響があるどころか、粗悪品の横行によって県産日本酒の信頼が失墜するなどというようなことは断じてあつてはなりません。

後の祭りとなりませぬよう、県産日本酒に関します知財の在り方も強く強

く御認識をいただきまして、ふくしまの酒としてのブランドを確立し、大いに消費の拡大を図るべきと考えます。

そこで、県は県産日本酒の消費拡大にどのように取り組んでいくのかお尋ねをさせていただきます。

これら一連の取組が進めば、先々にはやはり実際に本県に来てくださる方も増えるものと期待したいところであり、その鍵となりますのが本県の誇る福島空港でもあります。感染状況を見極めながら、引き続き感染症対策を徹底し、航空需要の高まった折には一気呵成に仕掛ける、これまでの御努力の成果を発揮した関係各機関との連携の強化等、効果的な取組の着実な推進が重要であります。

そこで、県は航空需要の回復を見据え、福島空港の活用促進にどのように取り組んでいくのかお尋ねいたします。

続きまして、ここからは福島で活躍できるための環境づくりについてであります。

このコロナ禍にありましては、学校内での授業や部活動、さらには運動会や修学旅行等の学校行事の中止等を余儀なくされたりと大変なご苦勞をいただきまして、今なお感染状況によりましてはおのこの難しい対応を迫られております。

私は、学校の場合は勉学はもちろん、様々な活動を通じて人間関係を学び、友情を育む場であると存じます。しかしながら、昨年度来それが困難な状況にあるという現実にも目を向けなければなりません。

そのような中で、様々な事情によって義務教育が受けられなかった方や病气や不登校などによる長期の欠席があつて十分に学校で学ぶことができなかった方、昨今県内でも活躍される方が増えておりますが外国籍の方などが義務教育を受けることができる機会を保障するという役割や、学校行事

等の経験、進学等のさらなるステップアップにもつながることが期待できる場でありますのが夜間中学であります。

国では、平成二十八年十二月にいわゆる教育機会確保法が成立、本年一月の衆議院予算委員会におきましては、菅総理大臣からも、今後五年間で全ての都道府県、指定都市に夜間中学が少なくとも一つ設置されることを目指すと答弁がございました。

本県におきましては、県教育委員会が先んじて平成二十七年から設置検討委員会を開催、県内十三の市や関係者との意見交換、ニーズの把握に努めてこられたと伺っておりますが、設置主体の決定までには至っておりません。本県に関わる一人でも多くの方々にこの福島の地で御活躍いただくことがかなうようにするためにも、本県における公立夜間中学の設置を早期に実現する必要があると考えます。

そこで、県教育委員会は公立夜間中学の設置に向けてどのように取り組んでいくのかお尋ねいたします。

私は常々、イノベーション・コースト構想の指定校やスーパーサイエンスハイスクールはもちろん、各実業高校や全ての普通高校においても本当にそれぞれが特色ある魅力あふれた取組がなされておると感じております。他都道府県では到底身につけることのできない先端技術や商品開発とその発信や販売、普通高校と特別支援学校が一つ屋根の下にあつてお互い高め合うことができ、それらの実績を基に福祉を学ぶことができる選択授業を受けることが可能な学校があることなどによって、私たちに本当に身近な存在の高校から有能で即戦力となります人材が毎年多数輩出されております。

私は、大いにこうした事実の発信に努めていただいて、これから高校への進学を考えている方々とその御家族、地域や県内企業の皆様、卒業生の皆

様等々、一人でも多くの県民の皆様方に各県立高校の特色と魅力を知っていただくことで、自信と誇りを持って堂々と御活躍いただき、あるべき高校改革への御理解の促進にも資するべきと考えます。

そこで、県教育委員会は各県立高等学校の魅力、特色の発信にどのように取り組んでいくのかお尋ねいたします。

このように、一人でも多くの皆様はこの福島において御活躍いただくことができるようにするためには、安心して生活や社会経済活動を営むことができる環境がなければなりません。最近も連日のように豪雨に見舞われている地域もございますが、一昨年の台風、豪雨災害の記憶も新しい中、この夏の水害に対する不安もございます。

そのような不安の軽減のために、着々と県管理河川における改良復旧や流域治水に取り組んでいただいておりますとともに、河道掘削も進めていただいております。しかし、この河川に堆積している土砂の撤去に当たりましては、まずその搬出先の確保が大前提でありますとともに、膨大な量の土砂の適切な処理が求められます。

市町村の事業等への活用なども含め、様々な工夫を凝らすことによつて、搬出先の確保や関係する県民の皆様方の御理解、御協力も得やすくなることと存じますし、県民の皆様方の安全・安心を担保するために一体不可分であります河道掘削と搬出先の確保が確実なものになるものと考えております。

そこで、県は河道掘削を円滑に進めるため、発生する土砂の処理にどのように取り組んでいくのかお尋ねいたします。

最後の質問になります。

この十年間、塗炭の苦しみを味わいながら、ようやく九十年を節目に復興公営住宅において徐々に平穏を取り戻しつつある方もいらっしゃいますし、

十年もたてば、御退職なされた方や新しい御家族に恵まれる方等々、様々な変化がございます。

そうした中で、これまでも様々なイベント等の事業を通じて地域住民との交流を深めてこられました。これからは例えば毎日の身近な農作業や季節ごとの営みなど、年間を通した通常の暮らし、元来あった日々の生活スタイルに基づいた、地域と一体となった日常を希望される方も少なくありません。そうした生活環境があればこそ、震災の苦しみを乗り越えての真の復興、この福島で安心して堂々と御活躍いただくことがかなうものと考えます。

そこで、県は復興公営住宅の入居者と地域住民との交流をどのように支援していくのかお尋ねをさせていただきます。

随分早口で話しました。時間が余ってしまいました。質問は以上でございますけれども、震災、台風、感染症といった、この間の教訓を生かすということが我々に課せられた使命であるとするならば、我々はそもそも現在の社会の在り方をより高次元にいわばアップグレードさせる、このことが我々に求められていることではないかと、このように考えております。

実はちょうど六年前の今頃、この県政を目指して私は「アップグレード福島」というものをスローガンに二度の県議会議員選挙に挑まさせていただきました。なかなか初めはこのアップグレードという表現を理解していただくこともできませんでしたし、小林先生から何か英語、片仮名を使うなどお叱りを受けるようなこともあろうかと思えますけれども、本日御指摘をいただきましたことをはじめ御指導と今回頂戴いたしましたこの質問の機会を賜りましたことに心から感謝を申し上げます。改めて、改めまして原点に立ち返ってこの政治の道で一層精進を重ねてまいります。

ことを固くお誓い申し上げ、私の一般質問を終了させていただきます。本日  
日も御清聴、誠にありがとうございます。（拍手）

◎議長（太田光秋君）執行部の答弁を求めます。

（知事内堀雅雄君登壇）

◎知事（内堀雅雄君）坂本議員の御質問にお答えいたします。

海外との絆を生かした情報発信についてであります。

私は、震災以降、様々な機会を捉え、世界各国からいただいた数多くの御  
支援への感謝の気持ちをお伝えするとともに、復興が進む本県の現状や魅  
力を丁寧に発信し、国際社会の理解促進に取り組んでまいりました。

一昨年、中国大連市で開催された国際会議に出席した際には、アラブ首長  
国連邦の食品安全大臣に対し福島県の食の安全性や生産者の懸命な努力と  
思いをお伝えし、その後の同国における県産食品の輸入規制の撤廃につな  
がりました。

また、先月にはワールド福島県人会の会長とオンラインによる懇談を行い、  
「ワールド県人会が一体となり、福島を世界に発信したい」という言葉を  
お聞きし、改めて絆の大切さを強く感じたところであります。

海外で今なお根強く残る風評を払拭し、復興を加速させるためには、福島  
県に思いを寄せる多くの方々との連携、共創が重要であります。

今後もこれまでの海外との絆を生かし、さらには国際社会における本県へ  
の理解と共感の輪をより一層広げながら、未来に向けて挑戦を続ける福島  
の姿を発信し、復興の実現に全力で取り組んでまいります。

その他の御質問につきましては、関係部長等から答弁をさせます。

（企画調整部長橘 清司君登壇）

◎企画調整部長（橘 清司君）お答えいたします。

福島イノベーション・コースト構想につきましては、交流人口の拡大等を

通じて地域経済の活性化につなげることが重要です。

このため、構想関連施設への関心を高めるためのオンラインツアーの構築やオーダーメイドによる視察対応、企業と連携した体験型ツアーの実施など受入れ体制の整備に努め、交流人口の拡大に取り組んでまいります。

（商工労働部長安齋浩記君登壇）

◎商工労働部長（安齋浩記君）お答えいたします。

各種表彰制度を活用した県内産業の振興につきましては、ワークライフバランス大賞、ベンチャーアワードをはじめ、国と連携した創意工夫功労者賞等を通じ優れた取組を取り上げ、士気向上等につなげてまいりました。引き続き、これらに加え、国のものづくり日本大賞や製品安全対策優良企業表彰など様々な表彰制度を活用し、さらなる産業の振興に取り組んでまいります。

（土木部長猪股慶藏君登壇）

◎土木部長（猪股慶藏君）お答えいたします。

河道掘削により発生する土砂につきましては、再度の災害防止に向け、河道掘削を確実かつ速やかに実施していく必要があることから、一時的に土砂を保管するストックヤードの確保等により他の工事へ有効活用するとともに、河川に隣接した遊休農地や採石場の跡地を処分場所として活用するなど、あらゆる手段を講じながら土砂の円滑な処理を進めてまいります。

（避難地域復興局長守岡文浩君登壇）

◎避難地域復興局長（守岡文浩君）お答えいたします。

復興公営住宅の入居者と地域住民との交流につきましては、コミュニティ活動を支援する交流員を配置し、お祭りや野菜収穫体験等の地域の行事に入居者の参加を促すことにより相互理解を深め、良好な関係の構築に努めているところであります。

引き続き、こうした取組の強化を図りながら、入居者と地域住民との交流がさらに深まるよう取り組んでまいります。

（文化スポーツ局長小笠原敦子君登壇）

◎文化スポーツ局長（小笠原敦子君）お答えいたします。

伝承館における風評払拭につきましては、地震、津波、原発事故の被害の実情とこれまでの復興の歩みについて、実物資料や展示解説、記録映像、語り部講演などを通して発信してきたところであります。

今後とも、県民が復興に挑戦する姿や複合災害についての研究事業の成果などを展示内容等に反映させながら、福島の今を正確に伝え、風評払拭に取り組んでまいります。

（観光交流局長國分 守君登壇）

◎観光交流局長（國分 守君）お答えいたします。

オンラインを活用した観光誘客につきましては、これまで県外旅行会社とのオンライン商談会やリモートによるホームページなどを実施してまいりました。

これらに加え、県内観光施設等に遠隔操作が可能なロボットを配置し、バーチャルな観光体験ができる新たな取組を検討しております。

今後とも、将来の来訪につながる観光誘客に積極的に取り組んでまいります。

次に、オンラインを活用した県産品の販売促進につきましては、コロナ禍においてオンライン販売へのニーズが高まっていることから、通信販売の送料支援やふくしまプライド便に加え、新たに販売サイトの運営に関する専門家派遣を行うほか、県観光物産交流協会が開設するオンライン店舗において事業者への支援を行うなど、さらなる販売促進に取り組んでまいります。

次に、県産日本酒の消費拡大につきましては、その品質の高さを積極的に発信し、需要の回復を図る取組が必要です。

このため、県内宿泊者を対象とした県産日本酒抽せんキャンペーンや特色のあるセット販売を行うなど、ふくしまの酒の魅力を発信してまいります。また、酒造りに関する高い技術力を県内でしっかりと継承し、品質をさらに向上させながら、消費拡大に全力で取り組んでまいります。

次に、福島空港の活用促進につきましては、航空会社や旅行会社等と連携した効果的な取組を進めることが重要であります。

ビジネスや観光等の航空需要の回復を見据え、国内定期便のキャッシュバックキャンペーン、レンタカーとセットの旅行プランの造成や旅行商品の広告費への支援など、きめ細かな施策を積極的に展開し、福島空港の活用促進にしっかりと取り組んでまいります。

（教育長鈴木淳一君登壇）

◎教育長（鈴木淳一君）お答えいたします。

公立夜間中学につきましては、義務教育の学び直しの場として重要であり、必要性は高まっていると認識しております。

その設置に当たっては、基本的には義務教育の提供であり、また本県は広域であることから、それぞれの市町村においてニーズに対応していただくことがふさわしいと考えております。

このため、市町村が設置する際の準備費用や非常勤講師等の人件費などの一部を県として負担する支援策について検討しているところであり、来月八日開催予定の設置検討委員会において具体的に説明し、検討を依頼することとしております。

次に、県立高校の魅力、特色の発信につきましては、生徒が学校に誇りを持って学習活動に取り組む上でも重要であります。

このため、生徒も出演するPR動画の作成を各校に促し、中学生や保護者、地域の方々などに広くアピールしていくほか、ふくしま高校生社会貢献活動コンテストや震災復興語り部交流会など、日頃の特徴ある取組の発表機会を拡充することにより、各校の魅力、特色のさらなる発信に努めてまいります。